

ウェビナー「国連生態系回復の10年」協賛イベント

2021年10月9日 開催

里山再生と生態系の回復 ～ウェルビーイングの観点から～

国連2030年アジェンダ「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成期限が迫るなか、国連は2021年からの10年を「生態系回復の10年」と宣言しました。人類の未来は生態系の回復にあるといっても過言ではありません。国土の67%を森林が占める日本は緑豊かな国と思われていますが、無秩序な開発や管理放棄によって日本の生態系も危機的な状況にあります。将来世代のウェルビーイングを損なわないために現世代は何をすべきなのか。このシンポジウムでは神奈川県の生態系に焦点を当て、生態系を保全・回復させるためのアクションについて多面的に議論します。

【プログラム】

14:00～開会挨拶 梅原出(横浜国立大学 学長)

14:05～プレゼンテーション

神奈川県の植生と外来植物群落(村上雄秀・神奈川県自然保護協会)

神奈川の広葉樹林(小池治・横浜国立大学 連携研究員)

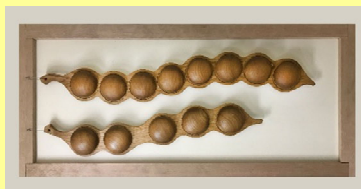
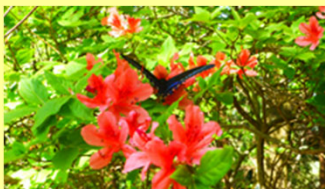
里山再生と人間のウェルビーイング(佐藤峰・横浜国立大学准教授)

多彩な広葉樹の造形による魅力発信(原口健一・横浜国立大学准教授)

15:05～ パネルディスカッション

司会:志村真紀(横浜国立大学・地域実践教育研究センター・准教授)

15:25 閉会挨拶 佐土原聡(横浜国立大学 副学長/地域連携推進機構 機構長)



主催:横浜国立大学地域連携推進機構 共催:NPO法人神奈川県自然保護協会
後援:国際開発学会横浜支部

シンポジウム抄録



梅原出(横浜国立大学学長)

ご存知のように大学のキャンパスは広大な森が広がっています。これは宮脇昭先生が人工的に設計された森です。残念なことに宮脇先生は本年お亡くなりになりました。しかしながら、その意思は大学のキャンパスに具現化されていると思っております。このシンポジウムを機会に、我々のアクティビティをしっかりと全国展開していきたいと思っております



村上雄秀(神奈川県自然保護協会理事)

神奈川県自然保護協会では2015年、科学的知見と市民感覚を総合した生物多様性ホットスポットを県内で191箇所選定しました。また2020年、多くの分類群の要注意外来種リスト(通称ブルーリスト)を公表しました。神奈川県には山地や沿海部に地域固有の貴重な植生が分布しますが、現在多くの地域で南方系外来植物群落が急拡大しており、生物多様性の貧化が進んでいます



小池治(横浜国立大学地域連携推進機構連携研究員)

神奈川県内では開発により里山の広葉樹林は減少し、残された森も荒廃が進んでいます。私たち日本人は古来より木と関わりながら生活し、独自の文化を育んできました。森林の生態系を回復し、森の恵みを次世代に継承していくことは現代の責務と考えます。私たちが選定した「神奈川の美しい広葉樹林50選」にぜひ足を運んでください



佐藤峰(横浜国立大学都市イノベーション研究院准教授)

里山の再生と人間のウェルビーイング(心身の健やかさと総合的な幸せ)の回復は両輪の輪で、SDGsとも密接に関わっています。私たちの社会は経済・福祉が中心に設計されているので、普通に暮らしていると自然から暮らしが離れがちです。自然と過ごす時間を積極的に取り入れ、3要素のバランスを取ることが、個人のウェルビーイングだけでなくSDGsの実現にも繋がります。里山の再生については、生態系の維持も大事ですが、経済や福祉への積極利用ということも含め保全であると再定義して実行することが重要だと考えています。



原口健一(横浜国立大学教育学部准教授)

私は教育学部で工芸を担当しています。今回のプロジェクトでは広葉樹の樹種の違いを感じる事ができる美術作品を制作しました。木彫を額装し、材の持つ表情の多様性を表現するとともに音をテーマとした造形に挑戦し、個々の広葉樹の違いを感じられる楽器を制作しました。何気ない日常の中にある木というものを感じて欲しいと思いますし、木に触れることの楽しさを社会に発信していきたいと思っています



志村真紀(横浜国立大学地域実践教育研究センター准教授)

私は建築が専門なのですが、建材のための広葉樹の市場は日本では3か所しかないそうです。そのため建築家あるいは家具を作る人が林業家や木材加工場と直接的な関係を持たなければならないという点がネックになっています。小学生や中学生の図工・美術で広葉樹を扱うことで、広葉樹の特徴を知った人材を育てられれば、それは人材育成・広葉樹活用のサプライチェーンにもつながるのではないかと思います



佐土原聡(横浜国立大学副学長・地域連携推進機構長)

本日のシンポジウムを通じて、生態系の回復について文系と理系が一緒になって考えるといういろんなことが生まれてくるということを強く感じました。横浜国立大学地域連携推進機構の取組の中で、里山はこれからますます重要なテーマになってくると思っております。今日の議論をベースにしながら、これからもこういったテーマを掘り下げる機会を持っていきたいと思っております

このシンポジウムは、神奈川県大学発・政策提案制度採択事業「Woodyかながわ～広葉樹の活用による地域活性化と県民の福祉増進～」の成果報告会を兼ねて実施しました